

愛知県自然観察指導員連絡協議会

協議会ニュース

No. **162**
2019. 3



Contents

- | | |
|----------------------------|--------------|
| 02 平成 31 年度 通常総会・記念講演会 | 事務局 石原 則義 |
| 03 あいちの自然観察会報告 豊田市前田公園の冬鳥 | 西三河支部 伊藤 千代子 |
| 04 野山のめぐみを装いに 木の実のアクセサリー ④ | 名古屋支部 佐藤 裕美子 |
| 05 支部総会報告 | 尾張支部 内海 勇夫 |
| 06 理事会報告④ 11/24 | 西三河支部 三田 孝 |
| 07 私の活動紹介 | 事務局 石原 則義 |
| 08 行事案内/事務局からのお知らせ/編集後記 | 東三河支部 松岡 孝子 |

今号の表紙

キンラン 猪高緑地にて 堀田 守（名古屋支部）

平成 31 年度

通常総会・記念講演会

愛知県自然観察指導員連絡協議会の通常総会を下記の通り開催いたします。総会は一年を振り返り、新たな年度の事業などを決定します。日頃出会う機会の少ない遠方の会員の皆様との交流の場にもなります。皆様、是非ご参加ください。

日時：平成 31 年 3 月 21 日（木・春分の日）13:20 ～16:25

場所：日本特殊陶業市民会館 3F 第 1 会議室 Tel (052) 331-2141

名古屋市中区金山 1-5-1（金山駅北口から徒歩 5 分）

名札をご持参
ください

次第：

13:00 受付開始

13:20 平成 31 年度通常総会開会宣言

- 1) 総会参加者数の報告
- 2) 平成 31 年度の協議会各理事紹介
- 3) 会長挨拶
- 4) 総会議長、書記の選出
- 5) 総会議事

①第 1 号議案 平成 30 年度事業報告

②第 2 号議案 平成 30 年度決算報告 監査報告

③第 3 号議案 新役員承認

④第 4 号議案 平成 31 年度事業計画(案)

⑤第 5 号議案 平成 31 年度予算(案)

⑥質疑応答・その他

14:20 総会終了宣言

～～ 休憩 ～～

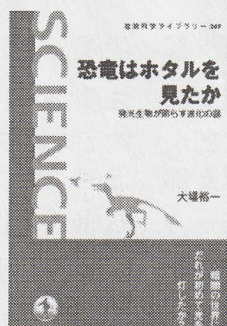
14:30 講演会・意見交換会

講師：大場 裕一氏

演題：「不思議な発光生物の世界：未踏の深海から近所の公園まで」

16:20 閉会・後片付け

講師紹介

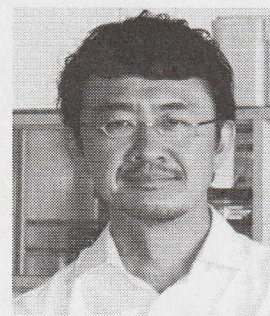
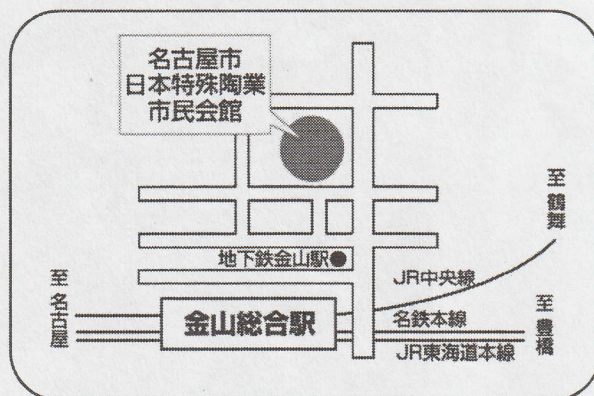


大場裕一氏著『恐竜はホタルを見たか』

札幌生まれ、山形育ち。北海道大学理学部卒、理学博士。名古屋大学大学院生命農学研究科を経て現在は中部大学応用生物学部准教授。専門は発光生物学。研究対象は、発光キノコからホタル、ミミズ、深海魚まで、光る生き物のすべて。著書に『ホタルの光はなぜだらけ』（くもん出版）、『恐竜はホタルを見たか』（岩波書店）、総監修に『光る生き物』（学研）など多数。発光生物の「物知り博士」を目指している。

※ 当日の緊急連絡先 事務局：石原携帯・090-8607-6712（当日のみ）

総会終了後、懇親会 17:00～（希望者は事務局に事前連絡を）



大場 裕一氏

豊田市前田公園の冬鳥

西三河支部 伊藤千代子

日 時 2019年1月12日(土)

参加者 17名(一般6名、会員11名)

くもり空でしたが風もなく平年に比べると暖かい日でした。豊田市民芸館・前田公園の駐車場を出発。枝下用水沿いに平戸橋公園―矢作川沿いに平戸橋方面―民芸館の裏―波岩の滝・吊り橋の跡―魚道沿いに勘八水管橋―矢作川漁協淡水魚種苗センター―波岩神社―杜若高校―身玉山(大きなお寺)―前田公園―駐車場へ戻る約3時間のコースでした。



▲新春観察会

私は鳥については知らないことばかりです。野鳥の会作成の「カモの見分け方」をいただいたことも嬉しかったです。

最初に出迎えてくれたのは『ギイー、ギイー』と鳴きながらコナラの幹を登っていくコゲラ。その他にカワラヒワ、ヒヨドリ、ハクセキレイ、キセキレイ、セグロセキレイ、シメ、シジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、アカゲラ。そして大きなサザンカにはメジロが30羽ぐらいに集まって花の蜜を吸っていました。

矢作川には留鳥のカルガモとカワウ、オオバンその他、冬にしか見られないマガモ、

オカヨシガモ、キンクロハジロ、コガモ、ホシハジロがいました。しかし、参加者を驚かせたのは広場下の岸边から2匹のヌートリアが対岸へ泳いで行ったことです。

この日はたくさんの方にいっぱい教えていただきました。一部を紹介します。

- ・水に潜って小魚や貝を食べるキンクロハジロは飛び立つ時に水面をけて助走をすること。そして潜り易いように足の位置は後ろにあること。

- ・平戸橋は大正から昭和にかけて鵜飼や花火見物の観光地だったそうですが、鵜飼のウはカワウでなく、しつけができるウミウの方で、捕獲するのがとても大変なこと。

- ・勘八水管橋近くには豊田で一番古いツルウメモドキ(つるではなく幹でした)とヤマウコギの大木、ハリギリも多くありシデコブシも春には花を咲かせること。

- ・湧水の近くにはイノモトソウなど9種類ものシダがあること。

- ・枯れたイタドリの笛はアンデスの民族楽器のような優しい音色でした。

- ・桜の名所、前田公園は越戸出身の前田栄次郎氏が1934年(昭和9年)に造り、戦争中の供出で燈ろうの金属部分や伊藤博文の銅像などが無くなっていること。

この冬は雨も少なく矢作川や巴川の水量が少ないと思います。地球温暖化がヨーロッパで繁殖する渡り鳥にエサ不足の悲劇をもたらしているそうです。雛に与えるチョウやガの出現期が早まっているのが原因らしいです。日本に来る鳥たちにも影響を与えていくのでしょうか?また、福島原発で汚染された鳥たちも心配です。

野山のめぐみを装いに

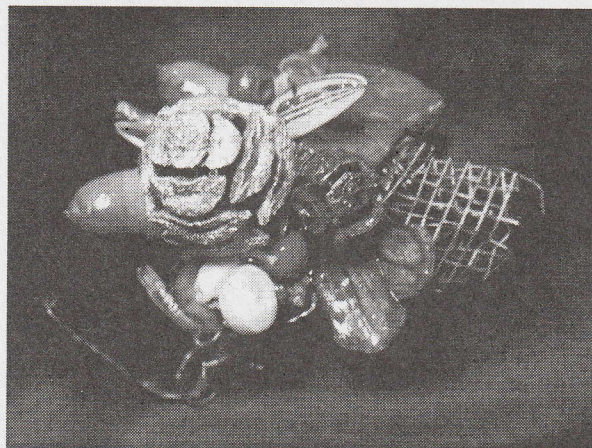
～木の実いろいろブローチ

木の実のアクセサリー ④



名古屋支部 佐藤裕美子

木の実のアクセサリーシリーズ最終回です。材料や部品が分からない、図がないので分かりにくい、とのご意見がありましたので、今回は粘土に木の实などを配置していくだけの手軽に作れるブローチです。使う実の種類によって表情が変わります。作る人のセンスでいろいろ試してください。



【材料】ブローチ台 3 cm 丸形・茶色の粘土（以上百円均一の店で）木の实いろいろ（メタセコイア、ドングリ、ナンキンハゼ、ヒマワリの実、スギの実、松かさ片など）・木の枝・ヘンプ布端・松の樹皮・ウッドビーズ赤・ボンド・トップコート

【作り方】①木の实は煮て乾かし、トップコートを塗っておきます。

②ブローチ台の丸皿にボンドを塗り、茶色の粘土を薄く貼ります。

③②の片端に三角のヘンプ布端を埋め込み、上から残りの茶色の粘土を押し付けます。真ん中は少し盛り上げます。

④③の粘土の真ん中に大きめの実（写真はメタセコイア）を配置し、その周りに適当に木の实を並べていきます。粘土に押し付ける部分にはボンドを塗ります。

※中心のメタセコイアの実はクリスマスリース用の余りでゴールドに彩色したもの。
※木の枝や木の皮などをアクセントに加えます。地衣類を使っても楽しいです。
※ヘンプ布はなくてもいいし、代わりにリボンなど手近な素材で工夫して下さい。
※赤いウッドビーズを入れるとグッと見栄えがします。

【おまけ】葉脈標本を使ってブローチを作ってみました。素材はサルトリイバラの葉。使用した木の实はヒノキの実、コブシの実、タンキリマメなどです。作り方は、葉脈標本を彩色し、レジン液を裏に塗ってブローチ用金具を貼り付け乾かします。表に木の实を乗せてレジン液をかけて乾かして固定します。裏にもう一度レジンをかけ、表にもレジンをかけます。裏表とも2～3回ずつかけて、適度な強度にします。
※葉脈標本は葉の種類によって向き不向きがあり、やり方もいろいろあるようです。ネットで調べてやり易い方法を試してください。彩色には水性絵具を使用しました。
（コブシの実は時間が経つと変色します）



※前回の訂正：モダマ→トチの実でした。

尾張支部総会報告

氏名 内海 勇夫

日 時：1月14日（月・祝）13:30～
場 所：岩倉市生涯学習センター
出席者：15名

尾張支部の総会は15名の参加で開かれ、平成30年度事業報告・決算及び監査報告と平成31年度の役員、事業計画及び予算が承認されました。

平成31年度は、定例観察会は9箇所、不定期の観察会「稲作り体験と観察会」を実施します。

定例会では、守山自然ウォッチングが4月より中止となりました。築水の実施日は昨年度から平日になり、昼食を含めた観察会になっています。

一泊研修は熊野古道方面。昨年度は、台風の影響で、中止になったため、今年度再チャレンジです。

研修会では、会員の方から、「若い世代の観察会への参加が少ないのは、組織としての活動に方向性の統一や各観察会の連携に問題があるのではないか」と指摘がありました。さらに個人で行っている教室を参考にしてはどうかという提案もありました。

あいちの自然観察会は、好評だった昨年に続き夏休み中に、犬山市来栖で川の生き物の観察をする予定です。

尾張支部 平成31年度役員

会 長：松尾 初

副会長：平井 直人

事務局：内海 勇夫

会 計：霜 佳子

会計監査：木村 慎一郎

通信編集：高谷 昌志

通信発送：出口 慎治

HP管理：山田 博一

HPチェック：齋竹 善行

西三河支部総会報告

氏名 三田 孝

日 時：2月2日（土）14:00～
場 所：岡崎市竜美丘会館
出席者：14名

出席者は多くありませんでしたが、新入会員2名が参加し、元気の出る総会でした。検討議題はすべて承認されました。

2018年度は「会主催観察会」を4回企画しました。台風接近により8月の佐久島観察会を中止にしましたが、他は無事実施できました。広報が新聞と市の広報誌のみになっているため参加者数は延べ55名に留まりました。また、5か所の「地域定例観察会」は雨天中止が多いことが影響し、参加者数は例年よりやや減少し約700名でした。このうち「岡崎中央総合公園」と「おかざき自然体験の森」については主宰してきた奥居さんが引退され、「岡崎中央総合公園」は閉会、「おかざき体験の森」は後継者が実施していきます。11月には岡崎市鳥川で「協議会の日」を担当し、43名の参加者を得ました。近年、発行が滞りがちであった会報は3回発行でき改善に向かいました。2019年度は「会主催観察会」を4回予定しました。4月6日「昭和の森（豊田市）」、7月21日「つぐ高原（設楽町）」、10月20日「段戸裏谷（設楽町）」、1月11日「亀城公園（刈谷市）」です。「地域定例観察会」は1ヶ所減じて4ヶ所になります。実働会員を増すこと、会報の発行の継続、ホームページの再開、など課題の多い年になります。

西三河支部 平成31年度役員

会 長、会計代行：三田 孝

副会長：馬場 隆之

事務局：石黒 豊広

広 報：中根 幸司

会計監査：水谷 宗保

幹 事：河江 喜久代、山本 博美、
伴 幸成

日 時：平成 30 年 11 月 24 日(土)13:30～ 場所：刈谷市産業振興センター
出席者：堀田、星野、石原、浅井、永田、新山、松尾、滝田、榊原、三田、河江

◆活動報告（7 月～11 月）

- ・あいち自然観察会、研修会、協議会ニュースNo.161 号参照
 - ・生物分類・生態研修会(10 月 23 日) 会場：日本特殊陶業市民会館
名城大学准教授の谷口義則氏から「愛知県における外来魚問題」
オヤニラミとコイの問題についての問題点を講演いただいた。
一般も含め 58 名の参加。協議会ニュースNo.161 号参照
 - ・協議会交流の日(11 月 23 日) 会場：岡崎ホテル学校 岡崎市鳥川(とっかわ)町
午前中は、自然観察(シリブカガシなど) お昼はオカリナ演奏 午後は、ホテルの話、
ドングリ工作 一般も含め 43 名の参加。担当：西三河支部 協議会ニュースNo.162 号参照
- その他
- ・振甫中学校 2 年生 116 名(支援クラス含む) 日時：9 月 11 日(火)9:30 第 2 本館前集合
面ノ木園地までの 4 km の自然観察 指導員 15 名で対応。次世代育成に貢献。
 - ・11 月 23 日(土)～24 日(日)、四日市において自然観察指導員講習会が行われた。
県内からは 29 名の受講生が参加。会場に県協議会のパンフレットを置かせていただいた。

◆議案

<主な確認事項など>

あいちの 自然観察 会・研修会	支部間の交流になっていないのではないかと。あいちの自然観察会・研修会のチラシをつくり、広報に努めて欲しい。
総会・記念 講演会 (p.2 参照)	総会・記念講演会の講師を大場裕一氏(中部大学准教授)、演題は「不思議な発光生物の世界：未踏の深海から近所の公園まで」大場研究室では、光る生きものの分類、分布調査から、発光メカニズム、生態、その進化まで、発光生物のあらゆる事がらを研究している。
指導員講 習会	2019 年 8 月 31 日(土)～9 月 1 日(日)美浜少年自然の家にて、公益財団法人 日本自然保護協会と共催で、自然観察指導員講習会を実施予定。55 名募集。協議会としては地元スタッフ 9 名の宿泊費と交通費を負担し、できるだけ講習会の参加費を押さえない。
生物分類・ 生態研修 会	2019 年 11 月 30 日(土)14:00～日本特殊陶業市民会館(予定)にて。講師は津田智氏(岐阜大准教授)、演題は、「火と植物の関係」(仮)津田氏は火と生態系の関わりを研究されている。
協議会交 流の日	2019 年 11 月 4 日(月・祝)を予定。名古屋支部が担当。西区の庄内緑地でネイチャ・フィーリングを考えている。新指導員の研修にもなると良い。
名簿管理	会費納入状況 名古屋支部 89 名 尾張支部 82 名(完納) 知多支部 51 名(完納) 西三河 33 名 東三河 46 名(完納)

◆協議会入会の確認(途中入会の場合)

- ①事務局から入会案内を新指導員に送付(メールまたは郵送)
- ②事務局 入会用紙を受理、事務連絡費として 500 円の振り込み。
- ③確認次第、協議会ニュースNo.161 号の送付、規約も同封。
- ④各支部長に入会用紙を送付。

次回 第 5 回理事会 2 月 11 日(月・祝)13:30～ 名古屋支部担当

私の活動紹介

東三河支部 松岡孝子

1. 自然観察指導員として

自然の中にいるのが好きで、「自然の面白さをもっと知りたい」という思いから、自然観察指導員の講習を受けました。それから20年以上が過ぎています。ほとんど成長がみられず恥ずかしいですが、会員の皆様の温かい気持ちに支えられ楽しく参加させていただいています。

東三河支部では年4回の地域自然観察会に加え、豊橋公園の定例観察会（3・4・5・6・7・9・11・12月の第2日曜日午前9時30分から2時間ほど）と東三河ふるさと公園観察会（今年は奇数月の第3日曜日の午前9時30分から2時間ほど）が実施されます。それらの企画運営を担当しています。当日は主に交通安全や最後尾の役割などをしています。また、地質や地形に興味があり、機会があれば「足元の岩石は何か」とか「景観からわかること」など観察項目の一つとして案内します。

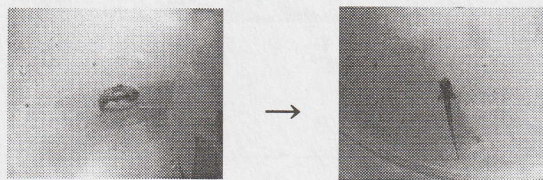
2. 私にとっての観察会とは

観察会に参加すると、必ず何か知らなかった生物を知ったり、生きていく上での工夫に気づいたりします。そして、参加者の方々と一緒に学び合えるのが魅力です。東

三河ふるさと公園では、植物や野鳥、昆虫などを観察しながら、足元の山をつくっている岩石が何かを見ます。そして、頂上の展望ツツジ園まで登ると東には本宮山や弓張山系の山々、運が良ければ富士山が望めます。南には、豊川下流域や三河湾、その向こうに渥美半島が見えます。本宮山、蔵王山、石巻山など見えている山々の地質が違うことなどから、どのようにできたのかイメージしてもらいます。手前に広がる豊橋市や蒲郡市街を眺めながら、明治20年の地形図と比較します。人工的に造られた海岸線、橋、道路、所狭ましと立ち並ぶビルや家々は、約130年間の繁栄（変化）を物語っています。もし、地震が起き津波が入り込んできたら、どう対策すればいいのかななどの話題を提供して、意見交流できたらいいなあと思っています。

3. これからやってみたいこと

①イモリの孵化の様子。いろいろな生き物で成長の過程を観察したい。



▲イモリの孵化

②東三河ふるさと公園や豊橋公園の定例観察会にこれまでは続けて参加できなかった。同じ場所での観察をすることで、四季を通してどのような変化があるのか知りたい。植物の種類の変化や生き残り対策、どんな動物がいつ現れるのかなど興味はつきない。早朝や夕方の自然観察会など一日の中での変化も面白いと思う。



▲遠見山より（東三河ふるさと公園）

【行事案内】

区分	日 時	内 容	場 所
総会	3/21 (木・祝) 13:20～14:30	平成31年度 通常総会	日本特殊陶業市民会館 3F 第1会議室
講演会	3/21 (木・祝) 14:40～16:20	テーマ:「不思議な発光生物の世界: 未踏の深海から近所の公園まで」 講師:大場 裕一氏	

<編集後記>

私は名古屋市緑区の住宅街に住んでいますが、庭でスズメやメジロ、ヒヨドリといった野鳥だけでなく、イタチ、ヒキガエル、ヒバカリといった生物を目撃したことがあります。名古屋市内でもイノシシが度々出没するようですが、将来、空き家が増加していくと、こういった野生生物が住宅地に頻繁に出没することになるのでしょうか。身近な環境を観察し続けると、何か変化が見つかるのではないかと思います。

さて、私は病気の悪化により、今年度末で編集担当を降りることになりました。142号から担当し約5年間でした。執筆いただいた会員の方々にはいろいろご迷惑おかけしたり、お手間をいただいたりしましたが、会員の皆さまのおかげでこれまでやっていくことができました。どうもありがとうございました。(日浦)



▲ヒバカリを捕まえた



▲草陰に潜んでいたヒキガエル

編集スタッフ

岡田雅子 馬場隆之 日浦誠章

協議会ニュース編集部

日浦誠章 TEL:080-3505-7783 E-mail:yakinegi.maru@gmail.com

愛知県自然観察指導員連絡協議会(あいち自然観察会)事務局 石原則義

〒464-0096 名古屋市千種区下方町7-3 TEL/FAX : 052-711-3087

E-mail:norinameobata@yahoo.co.jp Web Page:http://naichi.net

郵便振替口座:00820-9-6546 (名義:愛知県自然観察指導員連絡協議会)